

## 建築士会ウェブサイトにおける 住まいづくりに関する情報提供の現状

小 林 文 香

(2009年11月13日受理)

### The Current State of Housing Information on the Websites of Architects & Building Engineers Association

Fumika KOBAYASHI

#### Abstract

This study investigated the websites of Architects & Building Engineers Association to evaluate the status of the information available to residents. It was found that these websites provided information not only for their member architects but also for residents, those actively building a home. There were two kinds of information provided on these websites: information regarding construction and information regarding the roles of architects. Only a few websites provided both types of information. These websites should provide comprehensive information regarding the roles and functions of architects and construction workers. They should also provide information regarding the design and construction process so that residents and architects can establish a relationship of trust.

**Key words:** Housing Information 住情報, Architects & Building Engineers Association  
建築士会

---

## 1. 研究背景および目的

近年、欠陥住宅、悪質リフォーム業者、耐震偽装などの住宅をめぐる社会問題の顕在化や、夢の実現化としての住まいづくりやリフォームを扱うメディアによって、人々の住まいづくりの関心は高まり、これらを扱う情報も大量に発信されている。しかし、適切な情報提供が行われているとは言い難く、住まい手には情報を選択し、読み解く能力が求められる。また、戸建住宅取得をめぐる問題点として、①住まい手の経験不足による住まいづくりへの不安の増幅、②住まいづくり初期に適切な情報や相談先へのアクセスが困難、③作り手への認識不足、④作り手との情報の不均衡によるコミュニケーション不全があげられる<sup>1) 2)</sup>。特に、住まい手を迷わすのは、住まいづくりの作り手（依頼先）が業種として複数存在することである。図1に示すように、住まい手は作り手に対し、業種ごとの個別の評価軸と業種を横断する共通の評価軸をもって、住まいづくりの依頼先を決定することになる。現在、作り手を業種ごとに捉えた情報は多くのメディアが扱っている。情報内容も業種ごとに特徴、長所・短所が比較、整理され、個別の評価軸に当たる判断材料は増えてきている。しかし、共通の評価軸にあたる設計能力、施工能力、アフターケア能力になると、これらの判断は個人の裁量に任されているのが現状である。このような中で、住宅の質の大きな部分を占める設計・工事監理を法的に担う建築士の役割・職能への理解が、共通の評価軸のひとつとして重要になってくると考える。

そこで本研究では、住まい手の作り手理解の第一歩として、職能団体である建築士会<sup>注1)</sup>のウェブサイトを対象とし、ウェブサイトにおける提供情報の内容を調査、分析し、建築士についての情報提供の現状を明らかにすることを目的とする。

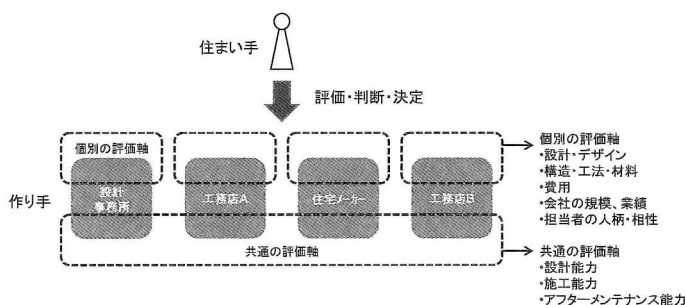


図1 住まい手と作り手の関係

## 2. 建築士会ウェブサイトによる情報提供の現状

現在、47都道府県すべての建築士会でウェブサイトを作成し、情報提供を行っている。そこで47都道府県建築士会のウェブサイト提供されている情報（2009年10月現在）について、情報提供の対象および内容に焦点をあて、分析を行った。

## 2-1 情報提供の対象および内容

### (1) ウェブサイトの利用者設定

建築士会は会員の建築士の地位向上や活動支援のための公益法人である。よって、サイトも会員向けの支援情報、および非会員も含めた建築士全体への建築士法関連の情報提供が主となる。しかし、ウェブサイトは社会に等しく公開され、誰もがアクセス可能である。建築士会が情報提供の対象をどのように捉えているのかを把握するため、ウェブサイトのトップページにおける利用者設定を調査した。建築士会が設定している利用者は、会員建築士以外は建築士志望者、一般市民の2者となっている。しかし、設定される利用者は建築士会ごとに異なる。47都道府県建築士会ウェブサイトのトップページをみると、利用者を明示せず、会員主体の情報提供を行っている建築士会は26件である（図2（a）参照）。一方、利用者をウェブサイトのトップページに明記している建築士会は21件である（図2（b）参照）。利用者の設定・表示について分類したところ、4タイプに分かれた。結果を表1に示す。利用者に会員建築士・建築士志望者・一般市民の3者を設定しているAタイプ、会員建築士・一般市民の2者を設定しているBタイプは、ともに9件である。建築士志望者・一般市民の2者を表示しているCタイプは2件、会員建築士向けと表示しているDタイプは1件である。一般市民を利用者とした表記は「一般向け（神奈川県、大阪府、山口県）」「一般の方へ（茨城県、千葉県、山梨県）」、「一般消費者（栃木県、埼玉県）」、「一般ユーザー向け」となり、統一されていない。また、利用者を表す言葉で情報提供を案内するのではなく、「住まいづくりInformation（福島県）」「住まいづくりGUIDE（東京都）」「住まいづくり（京都府）」といった一般市民とかかわりのある内容を用いたり、「知ろう！探そう！建築士（愛知県）」「社会を支える建築士（福岡県）」といった建築士への関心をうながすタイトルを表示している建築士会もある<sup>注2)</sup>。



(a) 会員主体のウェブサイト例（広島）



(b) 一般利用を含むウェブサイト例（東京）

図2 建築士会ウェブサイトのトップページ

以上より、半数以上の建築士会が会員および建築士を対象とした情報提供を行っていることがわかる。中でも、一般市民を利用者として設定している建築士会は、大都市圏の建築士会を含んでいる。また、ページのタイトルより、市民対象として「住まいづくり」を設定している建築士会と、建築士の職能・役割の情報発信を行っている建築士会があることがわかる。

表1 建築士会ウェブサイトにおける利用者表示の種類（21件）

	建築士(会員)	建築士志望者	一般市民	件数	都道府県
A	○	○	○	9	栃木, 千葉, 東京, 神奈川, 山梨, 長野, 愛知, 三重, 福岡
B	○	×	○	9	岩手, 山形, 埼玉, 新潟, 京都, 大阪, 山口, 徳島, 高知
C	×	○	○	2	福島, 茨城
D	○	×	×	1	滋賀

○：記述あり、×：記述なし

## (2) 提供情報の内容

建築士会が設定している利用者別に提供情報の内容を分類した結果を図3に示す。会員である建築士に対しては、会員支援のための情報提供を行っている。内容は法制度関連情報、建築士会が独自におこなっている自己研さんシステムのCPD制度、専攻建築士制度、地域貢献活動のほか、講習会・イベント、保険・保証制度についてである。建築士志望者に対しては、建築士法による建築士の定義・業務範囲の説明のほか、建築士試験の概要および法制度関連の情報提供を行っている。一般市民には、建築士（主として職能・役割）および住まいづくりに関する情報提供、登録建築士の紹介を行っている。これより、建築士会は一般市民と建築士の接点を住まいづくりと位置付けているといえる。

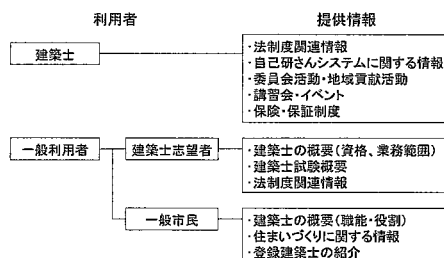


図3 建築士会ウェブサイトにおける利用者設定と提供情報の関係

## 2-2 住まい手への情報提供の現状

ここでは、建築士会による一般市民への情報提供の現状を明らかにする。なお、建築士会ウェブサイトにおける一般市民を表す言葉は、「消費者」、「一般」、「一般ユーザー」等と一定ではないが、彼らを対象として住まいづくりの情報提供をおこなっているため、本節以降、建築士会が利用者として設定している一般市民を「住まい手」と記す。

### (1) 住まいづくりに関する情報提供

住まい手を対象とした住まいづくりに関する情報を掲載しているウェブサイトは47件中16件

である。提供方法の種類を表2に示す。

表2 住まいづくりに関する情報提供の分類（16件）

情報提供の種類	件数	実施都道府県
各会作成の住まいづくり情報	3	東京、大阪、京都
外部資料の引用、抜粋	4	青森、埼玉、岩手、和歌山
外部リンク・リンク集	9	茨城、栃木、千葉、愛知、三重、兵庫、福岡、佐賀、沖縄

独自に作成した住まいづくりの解説を掲載している建築士会は東京都、大阪府、京都府の3件である。東京建築士会はページ名「住まいづくりGUIDE」のもと、建築無料相談室、住まいづくり、リフォーム、家づくりをはじめのための注意事項などについて情報提供を行っている（表3参照）。大阪府建築士会は「住宅を設計する仲間達」<sup>注3)</sup>という住宅を設計する建築士有志によるサイトを別に作成し、住宅ができるまでの経緯説明、住まいづくりの質問集などの情報提供を行っている。なお、京都府建築士会は現在コンテンツの半数が「準備中」となっており、具体的な記述はない<sup>注4)</sup>。一方、外部団体が作成した資料の引用・抜粋をしている建築士会は4件、外部リンクによる住まいづくりの情報提供を行っている建築士会は9件である。外部リンク先は、主として東京建築士会の「住まいづくりGUIDE<sup>3)</sup>」、東京建築士会と日本建築士会連合会が共同で作成した「住まいづくりのアドバイス 一般消費者に向けて情報発信<sup>4)</sup>」の2つである。

大都市圏の建築士会では、ウェブサイトにおける住まいづくり情報の提供の充実が確認できた。地方の建築士会では、会員に向けた情報提供の充実は見られるが、住まい手を対象としたものの少ない。また、地方の建築士会が東京建築士会・日本建築士会連合会共同作成の住まいづくりサイトへリンクしていることより、各会の地域性、独自性による情報提供の一方で、住まいづくり情報の集約化による情報の質の統一も今後の課題として考えられる。

表3 建築士会による住まいづくりに関する情報提供の例

	サイト名	主な見出し	内容
東京建築士会	住まいづくり GUIDE	建築無料相談室	建築相談の案内
		いい家建てよう！	住まいづくりのアドバイス、建築士選びのポイント等
		リフォームしよう！	リフォームに関する解説、登録建築士の紹介サイト、依頼先選びのポイント、バリアフリー等
		住まいづくりを学ぼう！	住まいづくりのアドバイス、耐震・防災・防犯のアドバイス
大阪府建築士会	住宅を設計する仲間達	住宅ができるまで	住宅ができるまでの流れを図解して解説
		会員一覧表示	登録建築士の経歴・保有資格・得意分野・住まい手へのメッセージ・作品の紹介
		よくある質問（FAQ）	設計者の探し方、無料相談会の案内、建築士、設計監理、設計料、設計期間、住宅建設の諸費用の説明

## （2）建築相談活動の案内

日本建築士会連合会のまとめによると、現在35都道府県の建築士会が住まい手に対し、定期

的に建築相談を行っている<sup>5)</sup>。この建築相談について、ウェブサイトで案内をしている建築士会は19件になる。このうち、10件は事業として建築相談活動を行っている旨を記載しているにとどまる。具体的な日程・場所を含めた建築相談の案内をしている建築士会は9件（秋田県、栃木県、東京都、愛知県、大阪府、奈良県、徳島県、高知県、佐賀県）である<sup>注5)</sup>。

一方的かつ一般的な情報ではなく、自分の問題に対し、専門家から具体的な助言が得られる建築相談は、住まい手にとって住まいづくりや作り手への理解を深める意味でも有効である。また、作り手にとっては、住まい手のつまずき・トラブルを知り、事前に防ぐためのデータとして蓄積することが可能な場である<sup>6) 7)</sup>。東京建築士会のウェブサイトでは、過去の相談をデータベース化し、利用者が検索できるようになっている<sup>8)</sup>。このようなことから、建築士会ウェブサイトにおいても、建築相談の積極的な広報や相談結果のフィードバックが望まれる。

### (3) 建築士に関する情報

ウェブサイトで建築士に関する情報提供をしている建築士会は47件中18件であった。情報内容は①建築士法による資格の定義、②建築士法による業務範囲、③各建築士会による建築士の職能・役割の3つにわかれる。これらの情報は、建築士会によって提供状況が異なり、3つとも提供している建築士会は6件である（表4参照）。住まい手が作り手である建築士を理解するためには、建築士法による建築士の定義・解説だけでなく、住まい手がわかる言葉に翻訳した建築士の職能・役割の説明が必要である。この観点から、情報提供の対象をみると、住まい手向けの情報と明示している建築士会は4件（山形県、東京都、大阪府、山口県）となる。また、対象の明示はないながらも、内容から住まい手向けの情報と判断できる建築士会は3件（静岡県、愛媛県、福岡県）である。次に、前述7件の住まい手に向けた建築士の職能・役割に関する記述を分類した結果を表5に示す。職能・役割に関連して、建築士の業務範囲、職種・業種、専門家としての姿勢・資質についての言及があることがわかる。職能に関する記述では、仕事の専門性、専門家としての住まい手への対応があげられ、これに関連して、役割に関する記述では、建築士が住まい手のパートナーであることが書かれている。職種・業種では、建築士が業種を限定する資格ではないことから、仕事の間が建築士事務所だけではない旨が書かれている。また、専門家としての姿勢・資質では、職能・役割をふまえ、建築物を単に設計するだけではなく、建築士には社会的使命があることが書かれている。

2005年の耐震偽装問題により、資格としての建築士が注目をあび、建築士への社会的関心も高まった。先にみる建築士の職能・役割に関する記述は、建築物の作り手を「設計事務所」、「工務店」、「住宅メーカー」といった業種で捉えるのではなく、建築物を良質なものとして実現する者は誰なのかという社会的な問いに答える内容となっているといえる。しかし、建築士について言及しているのは47都道府県建築士会のうち、わずか8都府県である。また、記述内

容も建築士会ごとに若干異なる。現在建築士会のウェブサイトで提供されている建築士に関する情報は、住まい手の作り手への認識不足を解消できるものとはいえない。

表4 建築士に関する情報（18件）

	建築士法による 資格の定義	建築士法による 業務範囲	建築士の 役割・職能	件数	都道府県
A	○	○	○	6	山形県、東京都、静岡県、大阪府、鳥取県、愛媛県
B	○	○	×	5	北海道、千葉県、兵庫県、奈良県、島根県
C	○	×	×	3	長崎県、鹿児島県、沖縄県
D	×	×	○	4	福島県、茨城県、山口県、福岡県

○：記述あり、×：記述なし

表5 住まい手対象の建築士の職能・役割に関する記述

記述項目	記述内容
職能	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築士はクライアントの注文に応じて、建築物の安全性や快適性、構造や設備にかかわる技術を頭に入れながら仕事（東京）</li> <li>建築士の積極的な参加を促し、選択できる質の高い情報を提供し、建築士の納得のいく説明をし（愛媛）</li> <li>建築士は建物の設計、工事の監理・指導監督の他、工事の契約、調査、鑑定、手続の代理等のできる技術者（山口）</li> <li>建築士は建主の話をよく聞き、皆さんが考えていることを具現化できます（山口）</li> <li>建設に関する法律のむずかしい規定や専門的なこともわかりやすく説明できます（山口）</li> </ul>
役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>あなたの町の「総合プロデューサー」（静岡）</li> <li>手抜き工事などが行われないように、建築主に代わりプロの目で厳しく監視します（大阪）</li> <li>建築主の家造りのパートナーとなる役割（愛媛）</li> <li>皆さんの相談相手でもあります（山口）</li> </ul>
業務範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画、建物の基本構想・企画から実施設計、工事施工さらに完成後の維持管理保全まで幅広い業務分野（山口）</li> <li>あらゆる建築物に対し十分な機能と耐久性を持つように設計、工事監理を行う（山形・福岡）</li> <li>建築士は、皆さんの求めに応じ報酬を得て、設計、工事監理、助言、事務手続き等を行うことを「業」としています（静岡）</li> </ul>
職種・業種	<ul style="list-style-type: none"> <li>活躍の場所は多岐に渡ります（山形・福岡）</li> <li>建築士は建築士事務所のほか建設会社、官公庁、会社等皆さんのまわりで働いています（山口）</li> </ul>
専門家としての 姿勢・資質	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な合理性と快適さまで演出する豊かな感性とオリジナリティも要求（山形・福岡）</li> <li>国家資格として特別の資格を与えられて、その期待に応えられるよう、十分な資質、才能、人格、経験を備え、その仕事の責任の重さを自覚し、次の世代に残るような優れた建築物や、より好ましい環境をつくっていく文化的な使命を担っている（東京）</li> <li>建物を作る時は、法律が遵守され、しっかりと設計図と工事監理をしなければよい建物にはなりません（山口）</li> </ul>

### 3. まとめ

本研究では建築士会ウェブサイトを調査し、提供情報の分析を行った。これより、建築士会ウェブサイトは会員である建築士だけでなく、一般市民、特に住まいづくりに取り組む住まい手を対象とした情報提供を行っていることがわかった。ただし、住まい手を対象とした住まいづくり情報を提供している建築士会は16件にとどまり、情報内容にもばらつきがある。一方、建築士会は地域貢献活動センターによる建築士の地域活動を支援や、CPD単位制度や専攻建築士制度を導入し、建築士の自己研さんや専門性を明示することによる、社会における建築士の信頼確保に努めている。また、2006年（平成18年）の建築士法改正に伴う建築士の責任の明確化や、従来の「設計者＝建築士」という職能・役割を超えて建築士の業務が拡大、変化する

中で、社会へ向けた建築士に関する情報発信、地域や行政との協働が建築士会の活動主題となっている<sup>9) 10)</sup>。このような状況で、住まい手が作り手への理解を深めるためには、先述の図1に示すように共通の評価軸に関わる情報として、作り手である建築士に関する情報提供が今後必要であると考え。また、住まいづくりや作り手に関する情報が氾濫している現在、情報の信頼性確保のために、基盤となる情報を公共性のある組織が発信していく必要がある。

これらをふまえ、今後は作り手側の情報整備の検討とともに、住まいづくり初期段階で住まい手が作り手を検討・判断するためのコミュニケーション・ツールの作成を行う予定である。

#### 注 釈

- 1) 建築士会は建築士法第22条の2にもとづき、都道府県ごとに設立された社団法人である。会員は建築士である。定款に定められている設立目的、事業内容は建築士会ごとに若干異なる。東京建築士会の定款では、設立目的は「この会は、会員の協力によって建築士の業務の進歩改善と品位の保持向上を図り、建築文化の進展に寄与することを目的とする。」とされている。また、事業には「1 建築士の業務の進歩改善に関する調査、研究並びにその促進、2 建築士の品位の保持、向上に関する施策、3 建築士制度の普及、宣伝並びにその改善、4 官公庁等からの業務受託に関する事業、5 前各号に関する印刷物の刊行並びに頒布、6 その他この会の目的を達成するために必要な事業」があげられている。
- 2) 東京建築士会、愛知県建築士会はタイトルの下に「一般消費者」を対象としている旨を記載している。
- 3) ウェブサイト「住宅を設計する仲間達」上の説明によると、住まい手から住まいの設計依頼先に関する問い合わせが大阪建築士会に寄せられたため、「住宅一般の資質の向上と建築士の職務に対する理解を深めるということを目的」に1997年3月に活動を開始している。
- 4) 京都建築士会では「住まいづくり」の見出しのもと、「住宅の保険・保証制度」「防災」「防犯」「住まいづくりのアドバイス」「マンション（共同住宅）」「建築相談・FAQ」が用意されている。前者3つは関係各所へのリンクが記載されている。後者3つは準備中のため、具体的な記述はない。
- 5) 佐賀県建築士会は支援団体として、「佐賀県安全住まいづくりサポートセンター」の建築相談の案内をしている。

#### 参考文献・サイト

- 1) 小林文香、妹尾理子：市民のための住情報提供に関わる課題と今後の方向性—住まいづくりプロセス調査からの考察—、建築教育研究論文報告集、No.9、日本建築学会、pp.59～64、2009.1
- 2) 小林文香、妹尾理子：インターネット建築相談の現状からみる住情報提供のあり方に関する研究その1～2、日本建築学会学術講演梗概集、F-1、pp.1341～1344、2007
- 3) 東京建築士会、住まいづくりGUIDE：<http://www.tokyokenchikushikai.or.jp/guide/index.html>
- 4) 住まいづくりのアドバイス：<http://www.abanet.jp/sumai/>
- 5) <http://www.tokyokenchikushikai.or.jp/link/kenchi.htm>
- 6) 兵藤幸治：専門家からみた住まいの問題点—建てた後で泣きを見ないために、住宅、56、日本住宅協会、pp.18～23、2007.6
- 7) 日本建築士会連合会 編：住まいの相談室Q & A 100、テツアドー出版、2006
- 8) 東京建築士会、建築Q&A：<http://www.tokyokenchikushikai.or.jp/soudan/kensaku2.htm>
- 9) 藤本昌也、巽和夫：建築士の未来を切り開く、建築士、第676号、社団法人日本建築士連合会、pp.8～14、2009.1
- 10) 藤本昌也 他：建築士の役割、建築士、第676号、社団法人日本建築士連合会、pp.15～21、2009.1

尚、本研究は科研費（基盤研究（C）21500725）の助成を受けたものである。